



県立小千谷高等学校 三年生だよ!

令和6(2024)年1月24日発行
No.19 残り1か月

国公立大前期日程まで あと**32日** 卒業式まで あと**37日**

やれることを着実にやろう!

大学入学共通テストの自己採点に基づいた全国集計の結果が返ってきました。900点満点の全国予想平均点が、5-8文系で536点（昨年比+4点）、5-7理系で559点（昨年比+8点）【いずれもベネッセ・駿台データネット2024より】と、平均点は前年並み（上昇基調）となりそうです。全国平均が安定している状況を踏まえると、予定通りに出願をする受験生が多くなるのではないかと考えられます。各社の合格可能性判定基準をもとに、冷静に現状を分析して決断してください。

共通テストが終了し、**本当の勝負はこれから**です。国公立大学の前・後期、中期日程試験に向けての出願が始まりますし、私大入試も本格化します。気を緩めることはできません。

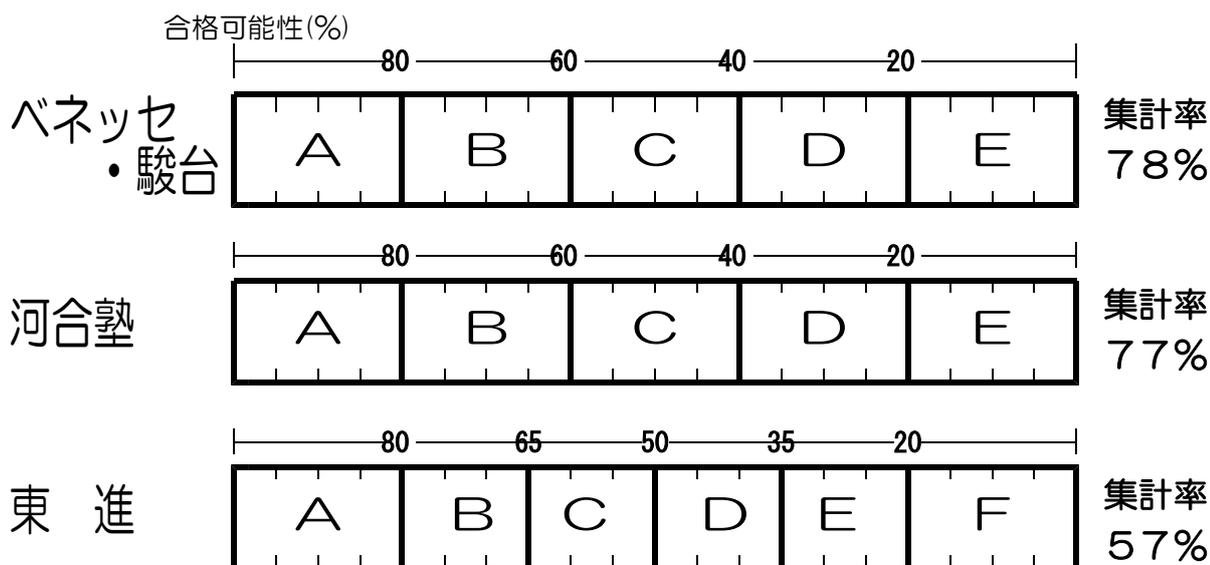
さて、国公立大学の2次試験出願についてですが、共通テストの結果を踏まえ、担任や進路指導部の先生、家の人とよく相談のうえ、決定してください。

各社の成績表をよく見る。そして、出願校決定は慎重に

⇒ A,B,C層内での位置の把握が大切

予備校各社の判定の幅が違います。データ集計率も異なり、判定自体も微妙に違うので注意が必要です。

※（集計率）＝（各社データ集計数）÷（共通テ出願者数）



志望校判定が「A, B(, C)」でも、範囲に大きな幅があります。

君たちの共通テストの結果は全国データに照合し、志望校（可否）判定が出されています。しかし志望校判定は、例えば「B」判定であっても合格可能性は「60～80%」,「65～80%」と幅があります。また、「A」判定といっても合格可能性「80%～」ですから、「A」層の下位に位置している場合、10人に2人は涙をのむこともあるのです。気を引き締めて2次対策に取り組む必要があります。

判定「A」「B」でも油断大敵、逆に「C」でも逆転のチャンスが！！

多少の配点の違いはあっても、前期試験のほとんどの場合は記述式の学科試験（総合問題も含む）か、あるいは小論文試験となります。共通テストの判定はあくまで「マークシート」方式のもので、記述（論述）力が問われる2次試験で合格点を取れるかどうかを見極めるのが重要です。もし自分が判定「B」、あるいは「C」であるなら、これからの取り組み次第で合格にも不合格にもなります。判定「A」であっても記述（論述）力が充分でなければ合格はできません。この時期は本当に油断ができません。最後の最後まで記述（論述）力の養成に真剣に取り組んでください。

「逆転幅」を冷静に見極め、出願校決定を！！

一般的に言われていることを列挙しておきます。参考にしてください。

- ① 2次試験の受験者の平均点は、多くの大学では得点率で50%を目標に設定されている。結果として、合格者の平均点が40%～70%になることが多い。
- ② 逆転は、1次の低得点者が、2次で合格者の平均レベル以上の得点を取って、合格ゾーンに入るケースが多く、そこで、2次の最高点と最低点の点差のおよそ半分程度が逆転ゾーンとなる。
- ③ 2次逆転が起きるのは、得点差のつきやすい数学、理科、英語、国語の順であり、一般的には、2次逆転は「文狭理広」の傾向がある。2次重視の配点で、2段階選抜がない場合はかなり広くなる。
- ④ 文系で数学が得意、理系で英語が得意だと当該科目だけでかなり逆転できる。
- ⑤ 1次が900、2次が200～400（英・国の場合）はほぼ1次で合否が決まり、逆転ゾーンは狭い。
- ⑥ 小論文は大学によって異なり、一般に課題型でありあまり差がつかず、本格的な小論文では逆転幅が広い。
- ⑦ 実技では、高配点の場合は全般に逆転ゾーンは広い。

国公立大出願に向けて

出願に向けて、以下の点に注意してください。

- ① 前期、中期、後期とも2月2日（金）が出願〆切りです。面談で出願先が決定したら、必着か消印有効かを要項で確認し余裕をもって出願すること。
- ② 出願が締め切られると、新聞に志願倍率が公表されるが気にしないこと。

公表されるのは「志願倍率」(志願者総数÷定員)です。出願しても私大に合格して受験しない者や、力尽きて受けない者もいます。大学側も辞退者を見込んで、若干の水増し合格を出す場合が多いので、実質倍率(受験者数÷合格者数)は、志願倍率よりも下がるのです。特に後期は前期で合格した受験生が抜けるため、大幅に実質倍率は下がります。

昨年の新大を例にすると、

2023年度入試	新潟大学	人文・人文	前期	志願倍率2.7倍	→	実質倍率2.2倍
			後期	志願倍率8.0倍	→	実質倍率1.6倍
		農・農	前期	志願倍率1.8倍	→	実質倍率1.4倍
			後期	志願倍率4.2倍	→	実質倍率1.2倍

特に、後期日程を欠席率で見ると

新潟大学	法・法	後期	志願者252	→	受験者57	(欠席率77%)
	工・工	後期	志願者230	→	受験者71	(欠席率69%)

志願者中の実に7割が受験場にいないのです。それに加え、そこで欠席する生徒は、前期や推薦で国公立大学に合格した人たちですから、上位層がいなくなっていることが容易に想像できます。とすれば、共通テスト試験後の成績分布や合格判定はどうあれ、受験した者皆に合格のチャンスがあると言っても過言ではありません。年度によっては実質倍率が1.0倍(時には1.0倍未満)だったということも実際にある話です。勝算は十分あります。とにかく、**後期まで必ず出願してください。**

私立大3教科など「科目・分野」を絞り込み、頻出問題を反復練習せよ

私立大と国公立大2次科目は、英・国や英・数・理など共通科目が多いです。そこで、まずこの共通科目を重点的・集中的に攻めましょう。これに並行(前後)して小論文・面接等の対策も立てましょう。直前対策は過去問を集中的にやることですが、その留意点は次の通りです。

- ① 過去問は「**受験校の制限時間内**」で解く。とくに頻出分野の問題は毎日2～3題解いて慣れておく。
- ② 不得意科目は基本事項に徹して、あまり難しい問題には深入りしない。模試で不出来な問題の復習をすること。
- ③ 記述式主体の解答は、論理的流れを大切に、採点者にわかりやすく、コンパクトな文章にまとめる。

以上、本格的な受験を前にいろいろと書きましたが、これからが正念場です。過去最高の集中力を発揮して、3年間学んだことの全てを出し切ってください。健闘を祈ります。

※ 2月の行事予定表については決まりしだい Classi にアップします。